

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

平成 14 年度厚生科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業
「多文化社会における母子の健康に関する研究」

分担研究報告書

母国語による両親学級開催について

宮地有紀¹、松尾博哉¹、中村安秀²

1 神戸大学医学部保健学科

2 大阪大学大学院人間科学研究科ボランティア人間科学講座

<研究要旨>

外国人登録者数のうち **18.6%**が南米地域出身である。また在留資格別では「日本人の配偶者等」（約 **28** 万人）のうち南米地域出身者が **41.4%**である。今回、在住の南米（ブラジル、ペルー）出身者の母子保健向上を目的に、講師（医師・助産師）を対象者と同国出身者とした母国語による両親学級を **NGO** と大学が主催となり開催した。今回の両親学級は同じ文化背景を持つ講師が母国語で行なったため、有益な情報を適切かつ正確に提供することができた。参加者は少なかったものの、地域で孤立していたり、健康問題や不安を抱えている人など母子保健の上でより **high risk** な人たちが参加しており、開催の意義はあったと考える。また、参加者が参加者同士や医療従事者、在住外国人支援者と関わることにより、彼女たちが安心して日本での妊娠・出産・育児を行なえることにつながる。今後も増加するであろう在住外国人の母子保健向上のためには、教育機関、NGO、公共機関が密に連携して、継続的に事業を展開することが重要と考えられる。

I 研究目的

平成 12 年度末現在、外国人登録者数は **168** 万人を越える。これは日本における国際化が進んでいることを示唆する。特に日本社会のバブル好景気を背景とした **70** 年代からの東南アジア地域出身者、**80** 年代後半からの南米地域出身者のいわゆる「新しい外国人」・ニューカマーの増加は著しい。外国人登録者数のうち **18.6%**が南米地域出身である。また在留資格別では「日本人の配偶者等」（約 **28** 万人）のうち南米地域出

身者が **41.4%**であり「定住者」（約 **24** 万人）のうち南米地域出身者が **68.8%**である¹⁾。同時に国際結婚や定住化に伴う、外国人の出産も増加している²⁾。

このような背景のもとで在日外国人に対する保健・医療・福祉において様々な問題が生じている。特にニューカマーの母子保健においては、このグループが医療面でハイリスクとなることが、様々な研究で明らかである^{2)~3)}。

また NPO 法人 (AMDA 国際医療情報センター関西⁵⁾)

の件数では南米地域出身者のものが多い。このような背景を踏まえ、今回、在住の南米 (ブラジル、ペルー) 出身者の母子保健向上を目的に、講師を対象者と同国出身者 (医師・助産師) とした母国語による両親学級を NGO と大学が主催となって開催した。

II 対象ならびに方法

1) 対象

日本在住で出産予定・乳幼児の育児中のポルトガル語圏及びスペイン語圏の妊産婦あるいは妊娠予定の人とその家族とした。また外国人母子保健に関わる医療従事者なども対象者とした。

2) 両親学級開催の概要

(1) 主催: 神戸大学保健学科国際母子保健研究会と KOBE 外国人支援ネットワーク

(2) 開催場所: 南米系のコミュニティの場所が異なるため 2 カ所に設定した。ポルトガル語を母国語とするブラジル人は神戸 (阪神) に集中しており神戸、スペイン語の母国語とするペルー人は姫路 (西播地区) に集中しており姫路で開催した¹⁾。

(3) 日程: ポルトガル語の第 1 回目を 10 月 13 日 (日) 第 2 回目を 11 月 10 日 (日) に決定した。スペイン語の第 1 回目を 10 月 20 日 (日) 第 2 回目を 11 月 24 日 (日) に決定した。

(4) 講師: 対象者と同国出身者 (医師・助産師) とした。他に日本人の産婦人医師、助産師、保健師が質疑応答に答えた。

(5) 内容: 1 回目: 妊娠 (栄養・体操・異常と予防・生活) 出産 (準備・しくみ・出産方法) 2 回目: 乳幼児の育児 医療保健システムとした。ただし参加者の希望に重点

を置いた。

(6) 広報: パンフレット作成 (資料 1) (日本語とポルトガル語・スペイン語を両面刷りしたものを 2 種用意) し、開催関係者やその知人、コミュニティ、NGO、コミュニティ紙、メディア (ラジオ、新聞)、医療機関に広報した。

(7) 評価: 両親学級終了時にアンケート⁶⁾ (資料 2) を実施した。

III 結果

1) 参加者

参加者数はポルトガル語: 延参加者数 5 名 延参加組 4 組、スペイン語: 延参加者数 2 名 延参加組 1 組だった (表 1)。

また参加者の中には健康問題や、不安を抱えている人もいた。

2) 当日の様子

参加者が少なかったため、個人の希望に応じた内容をした。そのため非常に積極的に参加され、質疑応答が多かった。終了時は非常に満足された様子だった。

3) アンケートより (表 2)

(1) アンケート回収数はポルトガル語とスペイン語、合わせて 5 である。これは延参加組にあたる。

(2) 参加者 (母親) 背景として、①年齢: 20 歳代; 2 人 30 歳代; 1 人 40 歳代; 1 人

②来日年数: 平均 9.3 年 (8.5~10 年) ③日本語力について (5 段階評価): 「よくできる」0 人 「少しできる」2 人 「あまりできない」2 人 「ぜんぜんできない」0 人 ④日本在住の理由: 「仕事」3 人 「パートナーが日本で仕事をしているため」1 人。⑤仕事: 「主婦」3 人 「会社員」1 人。⑥現在の妊娠の有無: 「妊娠している」1 人 「していない」3

人。⑦妊娠しているもしくは予定の人は何処で出産予定か：「日本」2人（児に対して制度が多いから、まだしばらく日本にいるから）

(3) パートナーの背景として①年齢：20歳代；2人 30歳代；1人 40歳代；1人 ②来日年数；平均 8.0年（6～10年）③日本語力について（5段階評価）：「よくできる」2人「少しできる」2人「あまりできない」0人「ぜんぜんできない」0人だった。

(4) 乳幼児の背景として：2人とも母国での出生。

(5) 居住地域について：大阪 2人 兵庫 2人

(6) 日本の両親学級への参加の有無は「いいえ」が5人であり、今回の両親学級に参加した人は誰も「日本」の両親学級には参加したことがないことになる。

(7) 両親学級の情報を得た手段として「人から聞いた」が4人と一番多い。日本人・日本人では共に2人であり差はなかった。

(8) 母国語による両親学級の評価（5段階）として「大変よかった」が5人であった。

(9) 母国語による両親学級で良かったと思うものとして「母国語でわかりやすかった」が5人、「知識が得られた」が5人と全員選択していた。また「日本と母国の違いが理解できた」「日本の母子保健のシステムがわかった」が共に4人だった。そして参加者が多い時では「同国の人と交流が持てた」が3人であった。

(10) 開催場所についての質問では「家から近い所」が2人、「大きな駅に近い所」が2人、「その他（ここでよい）」が1人だった。

(11) 開催日時についての質問では「平日」が2人、「土曜・日曜・休日」が2人、

「その他（いつでも良い）」が1人だった。

(12) どのような言語の両親学級に参加したいかという質問では「母国語」が4人と一番多かった。続いて「英語」「母国語の通訳つき日本語」が共に1人だった。

(13) 感想などについては、「とてもよかった。知らないことがたくさんあったので。たくさん協力してくれる人もいて心強くてよかった」「このような機会を与えていただき、感謝します。」とあった。

IV 考察

参加者数が少ない結果となった理由として、対象者の絶対数が少ないということも考えられるが、開催過程に問題があったと考えられる。今回私たちはコミュニティにこだわりすぎないようにしていたことが、かえって問題となったと思われる。開催場所に関しては、居住地より遠いにもかかわらず、参加（申込み）されている人もおり、場所により大きく参加者数が左右されないことがわかった。しかし姫路の第2回目が参加者0人であり、近隣の教会では多くの妊産婦や乳幼児を連れた母親がいたことから、コミュニティでは多くの参加者を見込むことが出来ると考えられる。つまり参加者にとって要であれば、場所に関係なく参加するが、妊婦や乳幼児を連れての参加が困難であり、コミュニティの場所であれば、参加しやすいのではと考えられた。また広報に関してはアンケート結果(7)より広報手段として「人から聞いた」がいちばん多いことから、「口コミ」が非常に有効だと考えられる。しかし今回の広報手段としてコミュニティつまり口コミが少なく、参加者の少なさに影響したと考えられる。今後は今回のような広報をしつつ、コミュ

ニティのキーパーソン経由や南米系食材配送トラックや飲食店の口コミを検討して最大限有効な広報ができるようにしていきたいと思う。

開催過程には多くの課題が残るが改善の余地があるので、継続を念頭において改善していく。

しかしその一方で、参加者数は少なかったことは今回の両親学級の成果を問うものであるが、数だけでは評価しきれないところがあると考え。実際のニーズがあっても、参加するということには、当日の欠席をみても直結しないと思われる。またアンケート結果 (1) ~ (3) より来日年数は母親の方が平均して 1.3 年長いにもかかわらず、日本語力は父親の方が平均して上であることがわかる。母親の日本語力があまり無い状態では母国語による両親学級がより正確に情報を得る手段として有効だと思われる。また (4) 日本での出産を考えている人もいる一方で、参加者の乳幼児は 2 人も日本でなく母国で出生していることから、周産期を日本で過ごす人は未知数であり、妊娠・出産・育児をしやすい環境を整えていくことも必要であると思われる。また (6) より日本の両親学級に参加した人がいないことから、在住南米人の母親が妊娠・出産・育児についての正確で有益な情報を得る機会を設定していくことも母子保健向上のためには必要だと思われる。参加者同士だけでなく、開催者である側の医療従事者や NGO、外国人支援団体とのつながりも、在日外国人にとって非常に有効だと考えられる。そして少人数だったからこそ個別に対応した内容ができたと考えられる。特に健康問題や不安を抱えた参加者にとっては質疑応答もでき、適切な指導を受ける

ことができたと思われた。また (8) や参加者の表情からも参加者にとって大変満足できるものであったと思われる。(9) より妊娠・出産・育児についての有益な情報をわかりやすく提供できたと考えられる。また「日本と母国の違いが理解できた」「日本の母子保健のシステムがわかった」と 5 人中 4 人が選択しており、日本の母子保健を伝えるだけでは混乱を招きかねることも、同じ文化背景を持つ講師であるからこそ、理解しやすく情報を提供できたと考えられる。当日の様子からも満足してもらえるものだったと考えることもできる。

V 結語

母国語による両親学級を通して、開催に至るまでの過程、そしてその結果を見ると、様々な課題が残った。特に広報などはそのひとつである。しかしその反面、成果もあったと考える。今回の特徴の 1 つでもあるように同じ文化背景を持つ人が講師であり、母国語によるものであったため、非常に有益な情報を適切にかつ正確に提供することができた。特に参加者には健康問題や不安を抱えている人もおり、そういう人たちにこそ支援サポートができるようにしていくことも、この両親学級には役目があることを認識した。また参加者同士や医療従事者、在日外国人支援者とも関わることで、参加者がより心強く感じ、安心して日本で妊娠・出産・育児ができるような環境を提供していく上でも意義はあった。

そしてこの両親学級を、今後も増加するであろう在日外国人の母子保健を支援する機会とし、日本における国際化を考え、日本人・外国人の区別のない母子保健の環境を提言していくものといっていきたい。そし

て教育機関、NGOの連携やその役割を活かし、また公共機関に対してもお互い協力して働かしていくことで、在日外国人の母子保健を日本人と同様に向上していくものと期待する。

文献

- 1) 法務省大臣官房司法法制部編:第 41 出入国管理統計年報平成 14 年版. , ①-③, 114, 2002
- 2) 李 節子, 他: 在日外国人の母子保健—日本に生きる世界の母と子. 医学書院, 1998
- 3) 伯野直美, 中村安秀, 日暮眞: 在日外国人の母子保健実態調査. 小児保健研究, 52 (6) : 564-567, 1993
- 4) 吉岡 毅: 在日外国人の母子保健 危機的状況にある人たち. 助産婦雑誌, 48 (8) : 635-640, 1994
- 5) 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター: 在日外国人医療相談に携わって 10 年のあゆみ. 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター, 2001
- 6) 山岡テイ, 他: 多文化子育て調査報告書. 多文化子育てネットワーク, 119-128, 2001

表 1 母国語による両親学級 参加者数

	参加者数名 (組)	申込み件数 (組)
ポルトガル語第 1 回目	1 (1)	2
第 2 回目	4 (3)	4
スペイン語 第 1 回目	2 (1)	3
第 2 回目	0 (0)	3

ポルトガル語 延参加者数 5 名 延参加組 4 組

スペイン語 延参加者数 2 名 延参加組 1 組

表 2 アンケート結果集計(両親学級について) n = 5

1. 今までに、日本の両親学級に参加したことがありますか？
はい:0
いいえ:5
2. この両親学級をどのように知りましたか？(選択)
新聞:1
人から聞いた:4(日本人:2 同国人:2)
その他:1(明石の役場)
3. 母国語による両親学級はよかったですか？(5段階評価)
大変良かった:5
4. 母国語による両親学級でよかったと思うものに をして下さい(複数可)
母国語でわかりやすかった:5
知識をえられた:5
日本と母国の違いが理解できた:4
日本の母子保健のシステムがわかった:4
同国の人と交流が持てた:3
その他:0
5. 次回あなたにとって参加しやすい開催場所はどこですか？
家から近い所:2
大きな駅に近い所:2
その他:1(ここでよい)
6. 次回あなたにとって参加しやすい曜日はいつですか？
平日:2
土曜・日曜(休日):2
その他:1(いつでも良い)
7. 次回、妊娠した時・子育てしている時には、どのような言語の両親学級に参加したいですか？
母国語:4
日本語:0
英語:1
母国語の通訳つき日本語:1
特に希望しない:0
8. 何か気付いたこと、感想などがあればお書きください
とてもよかった。知らないことがたくさんあったので。たくさん協力してくれる人もいて心強くてよかった。
このような機会を与えていただき、感謝します。